令和３年度前学期　授業評価アンケート結果のまとめ

※コロナ禍の下で緊急事態宣言等の発出もあった中、昨年度おこなったオンライン中心の授業に対する評価結果も考慮し、本学期の授業は原則として対面で実施した。感染や濃厚接触、ワクチン接種の副反応等を理由とする欠席については、各授業の内容と方法に応じて個別に十分な補填をおこなうこととした。

1. アンケート実施方法
   (ア)評価対象は全授業。
   (イ)Web アンケート方式で、授業の最終回に学生に対して回答を要請する。
2. アンケートの内容
   (ア)設問１：授業方法について６項目、設問２：授業内容について４項目。これらの回答は三択（はい、どちらともいえない、いいえ）で、それぞれ 10：5：0 の 10 点満点に換算して平均点を求め、それらの合計を総合評価点（100 点満点）とする。なお、項目 1-1 は 2019 年度以前のものに戻し、項目 1-6 は昨年度に変更したものを継続して使用した。
   (イ)設問３：授業で身に付いた力。DP に示された 6 つの力に対応する項目に対して、当てはまると思うものを選択する。
   (ウ)設問４：履修の動機および 1 回の授業あたりの予習・復習に費やする時間について、それぞれ選択肢から当てはまるものを選び回答する。
3. 解析結果：履修登録人数 15 名以上、回答数 10 名以上のもののみを対象とした。回答率は履修登録数を分母として 66.8%であった。
   (ア)設問１・設問２の項目ごとの平均点分布を、対象授業すべてに対してまとめて図１に示した。全体の傾向は、これまでの年度・学期の結果と大きく変わらない。表１に示した 2019 年度（コロナ禍前）の結果と比較すると、共通する設問９つすべてで評価点がかなり高くなっている。この理由としては、①オンライン授業実施にともなう教員の意識とスキルの向上、②実施方法が授業中の配付回収から Web 回答に変わったことによる回答層の変化＝学修意欲の低い学生が未回答？、の 2 つが考えられる。また、昨年度との比較において、多くの項目の評価点が同程度かやや高くなった中で教材活用のポイントがやや低下した点は、オンライン授業の特徴が表れているものと思われる。一方、授業満足度が高くなっている理由は、オンラインより対面授業を好ましく感じる学生が多いことを示しているかもしれない。
   (イ)図２には、対象科目すべての総合評価点の分布を示した。こちらも、全体的な様子は昨年度の結果と大きく変わっていない。ほとんどの授業が一定以上のレベルを保っていると言えるが、ごく一部に評価が非常に低い項目を含む授業があり、結果として総合評価点が低くなっているため、担当教員に改善を求めている。

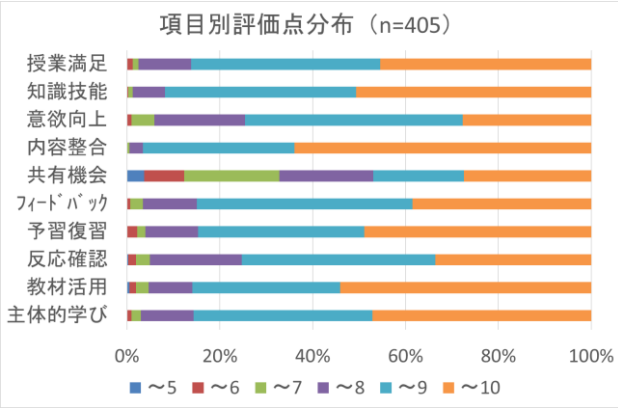


図１　項目別評価点の分布

年度	2019	2020	2021	
主体的学び	8.45	8.68	8.79	双方向性
教材活用	8.39	8.94	8.85	
反応確認	8.33	8.44	8.51	
予習復習	8.19	8.80	8.76	
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	8.39	8.65	8.69	
共有機会	9.06	7.48	7.76	出欠登録
内容整合	8.41	9.01	9.09	
意欲向上	7.96	8.34	8.45	
知識技能	8.48	8.80	8.90	
授業満足	8.25	8.59	8.80	
対象科目数	178	353	405	配付回収
回答率%	84	79	67	

表１　項目別評価点平均の年度比較

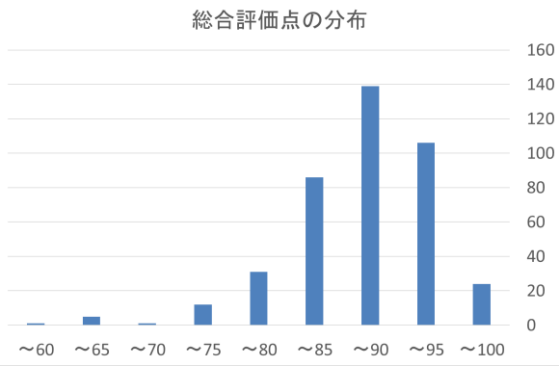


図２　総合評価点の分布

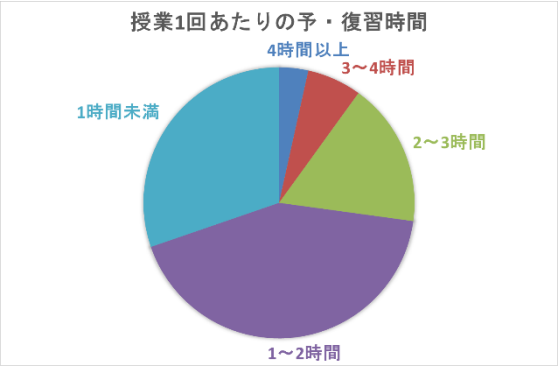
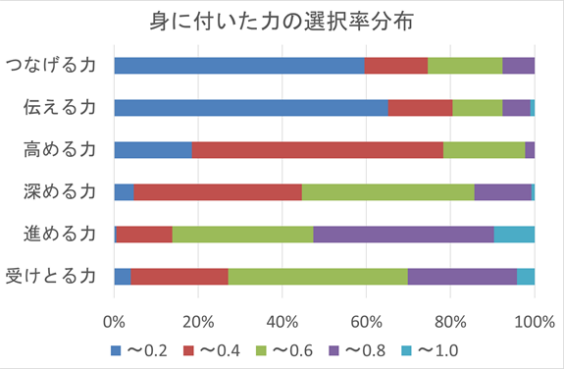


図３　授業外学修時間（全体）

（ウ）図３には、設問４で回答された授業１回あたりの予習・復習時間の割合を示した。昨年度にオンデマンド型授業が一部で実施されたことにともなって回答の選択肢を変えたこともあり、それ以前との比較は難しいが、全体としては未だ求められるレベルには達していないと言わざるを得ない。

（エ）図４には、設問３で回答された各授業で身に付いた力６項目の選択率を、表２にはそれらの値の年度比較を、それぞれ示した。。昨年度はオンライン授業実施の影響により全体に低下していた選択率が、対面に戻したことにより 2019 年度とほぼ同じレベルに回復した。ただ、つなげる力だけは戻りきっておらず、感染拡大を心配して授業中の話し合いなどを控えた影響ではないかと考えられる。



年度	2019	2020	2021
受けとる力	0.44	0.36	0.51
進める力	0.56	0.43	0.59
深める力	0.40	0.28	0.42
高める力	0.30	0.20	0.30
伝える力	0.19	0.13	0.19
つなげる力	0.31	0.09	0.21

図４・表２　授業で身に付いた力の選択率分布と平均値の年度比較